

「新年、おめでとうございます」

2018年01月01日

新年、おめでとうございます。

「あなたたちは真理を知り、真理はあなたたちを自由にする。」

(ヨハネによる福音書8章32節)

この年の、あなたの歩みの上に主イエスの恵みと祝福をお祈りいたします。今年もよろしくお祈りいたします。

隆雄は、今年の四月に喜寿を迎えます。年寄りぶらず、若ぶらず、押し寄せる「高齢化現象」を笑い、自由でありたいと思っています。悦子は、漂流民となり、クリスチャンになった「音吉」に関心を持ち、彼の生涯に感動し、終焉の地、シンガポールに行きました。

襲いかかる時代のニヒリズムに抗し、主イエスに赦された者として、それなりに充実した日々を送りたいと願っています。

2018年 元旦

今年の私たち夫婦の年賀状である。毎年、N・K姉の北軽井沢の森に囲まれた別荘に招かれているが、昨年も2泊し、のんびり過ごした。近くの浅間牧場に行き、浅間山の雄姿と木々の緑を楽しんだ。何年か毎に、寺島昭二牧師夫妻と温泉に行っているが、昨年は、彼が紹介してくれた ひなびた角間温泉に行った。湯量豊かで、村の人々が利用している温泉も3軒、はしごして、楽しんだ。

脊柱管狭窄症で腰痛が悩んでいたが、腰の痛みが取れた。M・S氏にマッサージとストレッチを週に一回、してもらっている。それ以外には、何もしていないので、M・S氏のお陰としか、考えられない。腰の痛みがないと、歩くことが苦にならない。1時間くらいの散歩を楽しむことができるようになった。本当に感謝である。

年を取ると、病気と闘っている友を持つことになる。山本将信牧師は大腸がんになり、闘病している。昨年、一度見舞ったが、彼らしく陽気に病と付き合い、パワフルに過ごしていた。彼は死期が見えるからと、がん死を望んでいた。彼から「お迎えはいつでもいいが、今日はだめ」という川柳を聞いた。生きている者の本音であろう。

妻の学生時代の友人二人が、同じパーキンソン病で、不自由な生活を強いられている。その一人は、私たちのホームページを読み、洗礼を受けたいと望み、夫君がその旨をメールで伝えてきた。お訪ねしたところ、受洗の意思が強いことを知ったので、横浜本郷台教会の佐野匡牧師に立ち合っただき、洗礼式をした。しっかり受け答えをし、感動的な洗礼であった。もう一人の方も訪ねた。教会には行っていないそうだが、クリスチャンであると聞いていたので、お祈りをして帰った。夫君から「お祈りをしてもらって、良かった」というメールがきた。二人の夫君たちの優しく、篤い看病にただただ敬服した。愛する人に看取られることは最高の幸いではないか。

横浜港南台教会の牧師を隠退して4年になる。楽をして申し訳ないと思うが、時間を自由に使えることはありがたい。毎日、ホームページを私の信仰告白として書いている。読者は少ないが、熱心に読んでくださる方がいて、嬉しく思っている。

原発反対と平和運動の市民活動に関われることは感謝である。原発関連の二つの裁判と、安保関連法の違憲訴訟の原告に加わっている。これらの市民運動に関わっている人々は皆、熱心で、誠実である。いつも、励まされている。沖縄県民の苦悩と怒りはいかばかりか。安全に平和に生きる権利を主張していきたい。時代は不寛容で、閉塞状況にあるが、大いなる楽観をもって思うことを言い、行動に表していく年にしたいと願っている。